

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立新池中学校 第3学年，全生徒

実施生徒数（169人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率は大阪府平均と大きな差はない。しかし、「思考・判断・表現」の問題の正答率はやや下回っている。

平均正答率（本校 66／泉佐野市 63／大阪府 67／全国 69.0）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

| 国語 | 特徴がみられた設問 |
|------|---|
| 1 二 | 話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する（51.2/65.1） |
| 2 二① | 漢字を書く（のぞく）（89.2/82.1） |
| 3 四 | 「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く（63.9/73.8） |

3. 学習状況調査より

| 質問項目 | 本校 | 全国 | 10%○ 5%◇ | 差 |
|---|------|------|-------------|-----|
| 国語の勉強は好きですか | 52.1 | 61.9 | ◇ | 9.8 |
| 国語の勉強は大事だと思いますか | 92.3 | 93.2 | | 0.9 |
| 国語の授業の内容はよく分かりますか | 81.1 | 81.2 | | 0.1 |
| 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか | 87.6 | 89.7 | | 2.1 |
| 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか | 90.4 | 94.7 | | 4.3 |
| 解答時間は十分でしたか（50分） | 88.0 | 84.9 | | 3.1 |

○毎週行っている漢字テストの成果が出ていると感じられる。

○問題文に難解な指示がある場合、読み取れている生徒が少ないため、3四の問題の正答率が悪い。

○概ね全国の平均と大差はない。「国語の勉強は好きである」に肯定的な意見を持っている生徒が全国平均より約10ポイント低い値となっている。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

・平均正答率は大阪府平均と大きな差はないが、得点分布をみると上位層が少なく、中間層にばらつきがある。

・「思考・判断・表現」の問題は正答率が低く、課題がある。

平均正答率（本校 49／泉佐野市 45／大阪府 51／全国 51.4）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

| 数学 | 特徴がみられた設問 | |
|--|--|--|
| <p>○1 次関数の、変化の割合の理解に課題ある。</p> <p>4 ー変化の割合が2である一次関数の関係した表を選ぶ(30.1/39.7)</p> | <p>○筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある</p> <p>9 (2)ー$\angle ABE$と$\angle CBF$の和が30°になる理由を示し、$\angle EBF$の大きさがいつでも60°になることの説明を完成する(12.0/13.4)</p> | |

3. 学習状況調査より

| 質 問 項 目 | 本校 | 全国 | 10%○ 5%◇ | 差 |
|-------------------------------------|------|------|-------------|-----|
| 数学の勉強は好きですか | 62.1 | 58.1 | | 4.0 |
| 数学の授業の内容はよく分かりますか | 85.2 | 76.1 | ◇ | 9.1 |
| 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか | 32.0 | 40.7 | ◇ | 8.7 |
| 解答時間は十分でしたか（50分） | 48.5 | 38.6 | ◇ | 9.9 |

○1 次関数の変化の割合の理解に課題がある。

○筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

○数学の勉強をする意味や必要性を感じていない生徒が多い。

○解答時間が十分だったと感じている生徒が多い。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

・平均正答率が全国と比べて低く、得点分布をみると、上位層の数は全国と同じであり中間層が少なく、下位層が多くなっている傾向がある

平均正答率（本校 43／泉佐野市 42／大阪府 47／全国 49.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

| 理科 | 特徴がみられた設問 |
|---|--|
| <p>【生命を柱とする領域】</p> <p>○複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈することに課題がある</p> <p>4(2)脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する（50/65）</p> | <p>【エネルギーを柱とする領域】</p> <p>考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善することに課題がある。</p> <p>5(3)考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する（34/43）</p> |

3. 学習状況調査より

| 質 問 項 目 | 本校 | 全国 | 10%○ 5%◇ | 差 |
|-----------------------------------|------|------|-------------|------|
| 理科の勉強は好きですか | 66.9 | 66.4 | | 0.5 |
| 理科の授業はよくわかりますか | 82.2 | 75.2 | ◇ | 7.0 |
| 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか | 57.4 | 78.9 | ○ | 21.5 |
| 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか | 46.2 | 64.5 | ○ | 18.3 |

○本校の生徒は、理科の授業を前向きに取り組み楽しいと感じている。また理科の授業内容は「よくわかる」と感じている。しかし、そのよくわかるという感覚が得点につながっていない。

○自宅での学習時間が少なく、授業の定着を行うことができず、得点が上がっていない

○授業内で実験を行うことが少なく、そのため見通しを立てて実験を行うという計画性が培えていない

○授業内で実験を行うことが少なく、実験の結果から考察する力が培えていない。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

| 設問内容種別 | 本校の状況 | 本校 < 本校回答率 / 全国回答率 > |
|-------------|--|--|
| 【家庭生活の様子】 | 睡眠時間にばらつきがある生徒が多い。 読書に親しむ生徒が全国の数に大幅に下回っている。 | 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか<29.6/37.0> 読書は好きですか<28.4/37.9> |
| 【家庭学習の様子】 | 学校以外での勉強時間は全国を上回っている。学校以外での勉強時間は全国を上回っている。 | 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）<12.4/7.3>（4時間以上） |
| 【学校での学習の様子】 | コンピュータを活用する場面は、全国を大きく上回っている。 | 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか<83.4/21.6>（ほぼ毎日） 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）<68.6/12.3>（ほぼ毎日） 学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか<44.4/5.0>（ほぼ毎日） 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか<29.6/4.7>（ほぼ毎日） 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか<76.9/56.7> 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか<33.7/22.5> |

本校の取組

◎これまでの取組

- ・過去3年間の「確かな学びを育む学校づくり」での実践と昨年度のスマートスクール推進事業での実践を土台とし、授業改善に取り組んでいる。
- ・さまざまな教育活動において、積極的に一人一台タブレット端末を活用している。
- ・長期休暇中の学習や課題のために、必要に応じたタブレット端末の持ち帰りを行っている。
- ・1年生の英語科と3年生の数学科で少人数習熟度別指導を行っている。
- ・全学年で朝の学習を実施している。
- ・eライブラリの学習プリントやiプリ、全国入試問題の過去問を利用し、学習内容の定着を図っている。
- ・まなびんぐサポート事業を活用し、1年生の希望者に対して放課後学習を実施している。
- ・テスト前に補充学習を実施している。
- ・家庭学習を定着させるために、1年生でマイチャレンジ（自学自習ノート）の取組みを行っている。
- ・情報教育についての授業を実施している。その中で、スマートフォン・携帯電話の使用に関する学習を通して情報モラルについて理解を深めている。
- ・「学力向上委員」が主催して、学期ごとに研究授業を実施している。今年度も昨年度に引き続き、「全ての生徒がわかったら楽しい、できたら嬉しいを実感できる授業をめざして」をテーマに、取組みをすすめている。
- ・相互授業参観週間を設け、教員同士高め合える関係作りを行った。
- ・市内統一アンケートの結果を分析・検証し、指導につなげている。
- ・4月に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研修を実施した。
- ・学期ごとに、生活アンケートを実施し、生徒一人ひとりの教育相談も行うことで、生徒の状況把握に努めている。
- ・6月にhyper-QUを実施し、その分析・検証を校内研修で行い、本校の生徒の状況把握や理解に全職員が努めている。
- ・新池中学校区の小学校とも連携し、小中一貫教育の実現に向けて取り組んでいる。
- ・4月に生徒指導に関する校内研修を実施し、全職員が同じ方向性を持って指導できる環境や体制を構築している。

◎これからの取組

- ・2回目のhyper-QUを11月に実施し、生徒の状況がどのように変化したのかを校内研修で分析・検証し、生徒一人ひとりの状況や学級の状態を的確に把握することにより生徒理解を深めながら、より適切な指導や対応につなげていく。
- ・12月に3日間オープンスクールデーを設け、地域に学校を開く。
- ・「学力向上委員会」主催の校内研修、研究授業を3学期に行う。
- ・生徒授業アンケートの実施と結果分析を行う。